

グリーンカレッジ in 国民の森

王滝署・治山林道課 治山第二係長 いぐち 井口 たけし 剛
治山第一係長 なかはた 中畑 たかし 孝史

要 旨

長野県西部地震による土石流災害跡地の復旧のためにつくられた「国民の森」が10年目を迎え、この森を守り育て、さらに認識を深めようと“グリーンカレッジ in 国民の森”が開催された。本発表は、イベントの経過と今後への指針として結果を考察したものである。

はじめに

昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震は、王滝村を震源とし、地震の規模M6.8、震源の深さ約2kmの直下型地震であった。この地震により、御嶽山の南東斜面に発生した大規模崩壊、通称「御岳崩れ」は、土石流となって伝上川、濁川を流下し、8km下流の王滝川まで流出した。崩壊土砂量3,600万 m^3 、土石流による荒廃面積600ha、国有林関係の被害総額約154億円に達する大災害であった。

伝上川から土石流が乗り越えて流入した濁沢は、55haにわたって675万 m^3 の土石が堆積し、この土石の再移動による2次災害防止工事を早急に行わなければならない状況であった。

1 国民の森

(1) 設立

昭和62年に中日新聞社が創業100周年の記念事業の1つとして、前述した濁沢地区16.5ha（写真-1）と岐阜県加子母村の国有林12.3haに、「緑と水を守り、治山治水、災害防止を図り、森林・林業への意識を高め、うるおいのある国づくり」を趣旨とした“国民の森”造成を行い、21世紀に向けた森づくりを提唱した。

造成にあたって一般からの寄付を募り、この寄付金と新聞社の拠出金が造成費用として村へ寄付され、王滝では村からの施工委託を受け営林署で造成事業を行った。

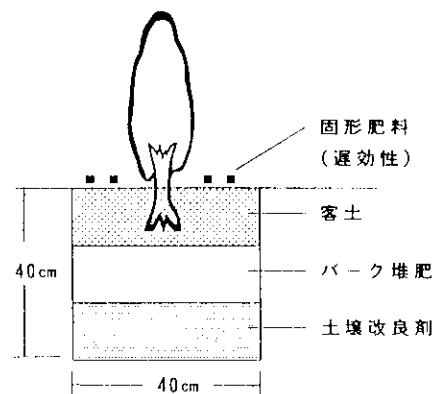
(2) 植栽

植栽は昭和62、63年に行い、その後の補植を含めると約7万本が植栽された。

植栽木はヒノキ、サワラの郷土樹種、カラマツや荒廃地に強いヤマハンノキ、ヤシャブシ、ウダイカンバ、カツラ、ミズナラ、また花木としてサクラ、ハナノキの10種類である。



写真-1 国民の森全景



植穴はミニバックホウによる機械掘り

図-1 植栽方法

土石流が堆積した濁沢の状況は、土壌層特に腐食層がなく、通水性、通気性が悪く植栽には非常に悪い条件でありました。そこで植栽は、40 cmの植穴をバックホウで掘り、下層に土壌改良剤、中層にバーク堆肥、上層に客土を入れ、さらに遅効性の固形肥料をおく方法で行いました。

(図-1)

2 グリーンカレッジ

国民の森が昭和62年の造成から10年目を迎えるにあたり、中日新聞社では「育林作業の体験活動や森に親しむイベントを通じて、森林の大切さを学ぶ」という趣旨で、“中日森友隊”を結成した。このメイン活動で計画されたのが“グリーンカレッジ”である。(参考：中日森友隊は随時入隊可能で、入会金、年会費は不要)

グリーンカレッジは「国民の森を守り育て、親しみながら森に対する認識を深める」ことを目的として、今回102名が参加して、平成8年8月10日～11日の2日間に開催された。

1日目が王滝、2日目が加子母の日程で、王滝では国民の森がある濁沢で森林教室、3コースに分かれてのトレッキングを行った。

(写真-2)

(1) 森林教室

全員参加の森林教室は、写真パネルを使っての地震発生から災害、復旧状況の説明、模型を使った治山ダムの効果の実験、また森林のしくみや働き、生活とのかかわりの話などを行った。

(2) トレッキング

3コースを設定し、あらかじめ参加者に希望をとってトレッキングを行った。

ア 災害復旧コース

復旧工事の状況を見学するコースである。まず災害地を一望できる展望台へと上がり、全容を見学し、さらに濁沢、伝上川の現場へと足を運んだ。また、土石流の観測システムなども見学した。(写真-3)



写真-2 国民の森にて



写真-3 災害復旧コース



写真-4 緑化工事体験コース

イ 緑化工事体験コース

簡易な治山工事の施工体験をする今回のメインコースである。ウッドブロックを使った土留工の設置と植生マットを使った緑化工事を行った。植生マットについては、第1回目のグリーンカレッジを記念して、国民の森内の広場を利用して、王滝村と国有林のマークを異なる種子を配合した植生マットを張りデザインした。(写真-4、5)

ウ 森林散策コース

森林浴をしながら、森林について学習するコースである。ここでは、木曾ヒノキやサワラなどの木曾五木やシラカンバ、ナラ、カエデなどの広葉樹をみて学んだり、人工林、天然林の違いを学んだ。また、近くの溪流では休憩も兼ね水遊びなども体験した。(写真-6)



写真-5 緑化工事体験コース



写真-6 森林散策コース

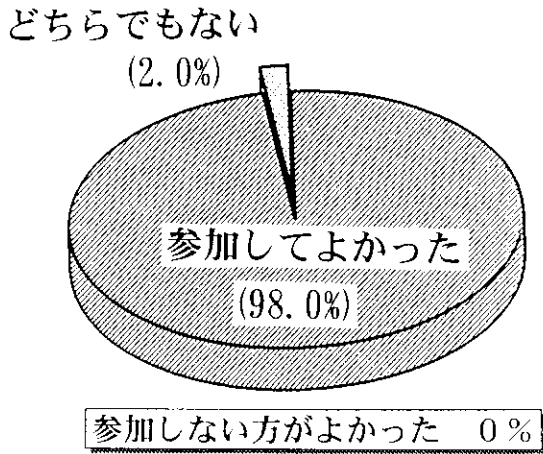
3 アンケート結果

今回の参加者に、グリーンカレッジ終了後アンケート調査を行った。

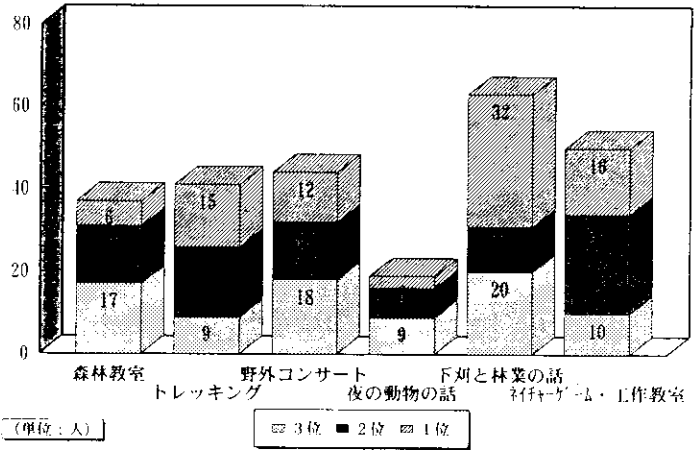
(1) 参加しようとした理由は？

- ・自然が好きだから
- ・子供に自然の大切さを教えたかった
- ・森に興味があった
- ・森の現状を知りたかった
- ・勉強になると思った
- ・おもしろそうだった
- ・ボランティアに参加したかった
- ・両親、友人に勧められた
- ・新聞を見て
- ・林業を体験したかった
- ・下草刈りがしたかった
- ・何かいいことがしたかった
- ・星が見たかった
- ・宝探しがしたかった
- ・いろいろな年代の人と知り合いたかった
- ・もうすぐ結婚するので、何かやりたかった
- ・夏休みの自由研究で森のことをやりたかった
- ・会社が協賛しており、組合から依頼があった

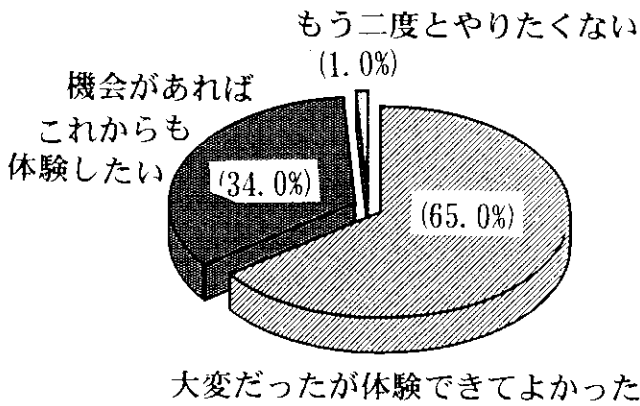
(2) グリーンカレッジに参加されて
いかがでしたか？



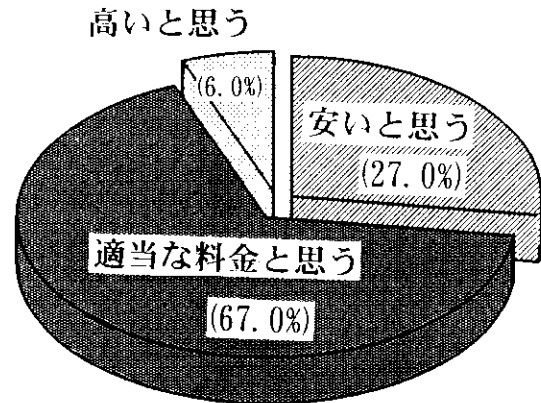
(3) 行事の中でよかったものは？
(行事別に順番を付ける方法で回答)



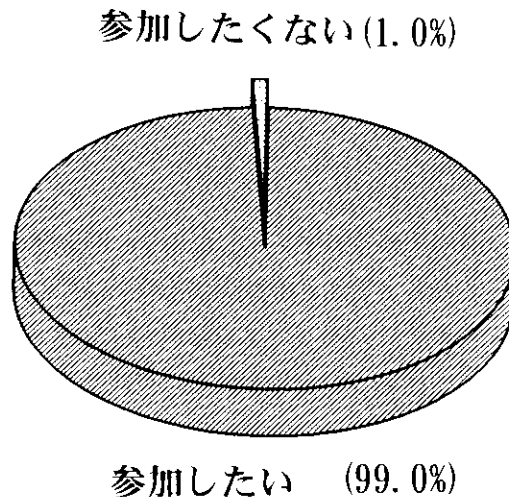
(4) 下草刈り作業はいかがでしたか？



(5) 1泊2日の行程を終えて、参加費
12,000円の料金はいかがでしたか？



(6) これから年1回開催していきますが、今後の参加についてどう思いますか？



(7) 6で参加したいと答えた人で、次回からどんな林業体験がしたいか、またはどんな行事を企画してほしいか？

a 林業体験

- ・枝打ち
- ・植付け
- ・下刈り
- ・炭焼き
- ・伐採現場の見学
- ・木や草の名前をもっと知りたい
- ・成長の段階を実際のもで見た

b アウトドア

- ・テントをたてる
- ・魚釣り
- ・カヌー
- ・キャンプファイヤー
- ・星の観察
- ・肝試し

c その他

- ・ゆっくり森林散策がしたい
- ・山村体験
- ・環境問題に関すること

(8) 中川森友隊の一員として、どんなイベントに参加したいと思いますか？

a 林業体験

- ・植林、海外緑化
- ・いろんな山を体験したい
- ・もっとハードなイベント
- ・冬場の作業

c 自然観察

- ・自然観察会
- ・星の観察会
- ・紅葉を楽しむ会
- ・バードウォッチング
- ・水中生物の観察

b 環境問題

- ・森林保護のボランティア活動
- ・森のゴミ拾い
- ・都市の緑化協力

d その他

- ・森に関する講演会
- ・キャンプ
- ・現地の山林関係者との交流会

4 考 察

王滝村には、中京方面の水瓶の1つ「牧尾ダム」があり、名古屋周辺の人達にとっては水源林として関心が高い地域である。しかし、参加者の大半が王滝へは始めて、またはスキー場しか知らないという人であった。アンケートでは、キャンプやカヌーなどのアウトドアライフはもちろんのこと、造林の作業や自然観察、またはボランティア活動、交流会等々、自然との触れ合い、山との触れ合いを多くの方が求めている。このような希望を充分反映できるように企画し、多くの場を提供することが必要であると考え。そしてこうしたことが川上、川下一体となった山作りとなるのではないか。

今回のイベントが初めての開催であったこと、また年齢を問わず健康で作業ができる人を募集したため、9歳～71歳と幅広い年齢構成となり、内容の設定には頭を悩ました。参加者は応募して来たので、アンケート結果からも下刈りやトレッキングなどの体を使った内容は好評であった。しかし一方では、幅広い年齢に合わせ多くの内容を盛り込んだことで、つめこみすぎではないかという意見もあった。

9年度のグリーンカレッジについては、2日間とも王滝署管内での開催が予定されている。自然と触れ合いながら、森林とそこから生まれてくる水の大切さを感じとれるように、造林や治山事業の体験作業の企画や、参加してよかったと感じていただけるようなイベントを企画したいと考える。

おわりに

多くの方々の寄付金から生まれた国民の森も10年という節目を迎え、また新しい1歩を歩み始めました。土石流災害の復興のシンボルとして、また本当の意味で国民の森となるよう努力したいと思います。今後も皆様のご意見、ご指導をお願いします。